

県内企業景気動向調査

結果の概要

◆ 調査の目的 ◆

県内に本社を置いて企業活動を営む法人企業を対象に、各社の業況の現状と今後の見通しに関する判断を調査し、県内景気の動向について把握するために実施した。

◆ 調査の方法 ◆

オンライン・アンケート(760社)、並びにヒアリング(24社)。

◆ オンライン・アンケートの集計方法 ◆

すべての質問項目についてDI (Diffusion Index) 値を求める。たとえば、各社の業況を示す「自社の業況DI値」の算出方法は次の通り。

$$\text{「自社の業況DI値」} = (\text{「良い」と回答した企業の割合}) - (\text{「悪い」と回答した企業の割合})$$

◆ 調査時点 ◆

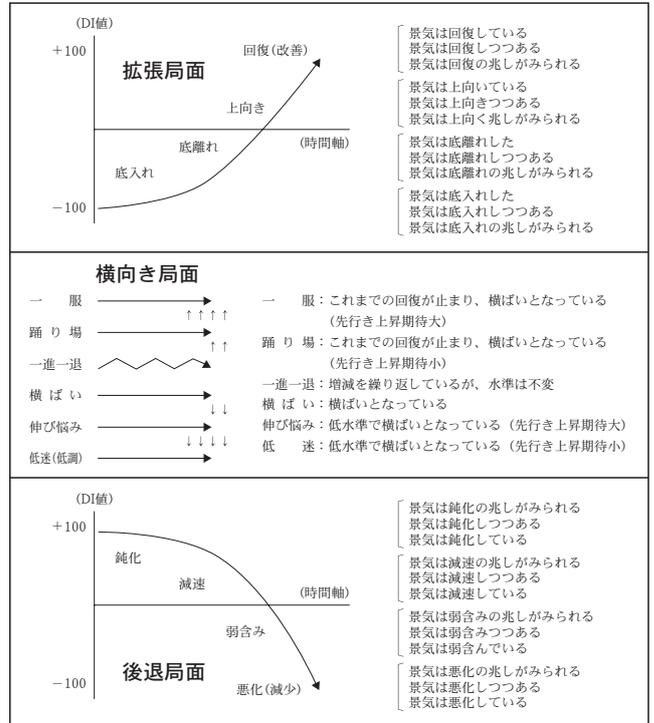
オンライン調査：平成18年5月8日(月)～19日(金)

ヒアリング調査：平成18年5月29日(月)～6月16日(金)

◆ 地域区分 ◆

地域名	対象となる市町村名
村山南部	山形市、上市市、山辺町、中山町
村山北部	寒河江市、村山市、天童市、東根市、尾花沢市、河北町、西川町、朝日町、大江町、大石田町
最上	新庄市、金山町、最上町、舟形町、真室川町、大蔵村、鮭川村、戸沢村
置賜	米沢市、長井市、南陽市、高畠町、川西町、小国町、白鷹町、飯豊町
庄内田川	鶴岡市、庄内町、三川町
庄内飽海	酒田市、遊佐町

◆ 判断用語の凡例 ◆



景気天気図

天気図とは、地域別・業種別の景気動向を見比べるため、自社の業況DI値(前期比)を5段階に分けて図解したものの、「天気図の凡例」をご参照のこと。

天気図の凡例

特に好調	好調	まあまあ	不振	きわめて不振
DI ≥ 30	30 > DI ≥ 10	10 > DI ≥ 10	▲10 > DI ≥ ▲30	▲30 > DI

(前回調査)

	全業種	建設業	製造業	卸・小売業	サービス業
山形県					
村山南部					
村山北部					
最上					
置賜					
庄内田川					
庄内飽海					

(今回調査)

	全業種	建設業	製造業	卸・小売業	サービス業
山形県					
村山南部					
村山北部					
最上					
置賜					
庄内田川					
庄内飽海					

全業種（回答企業358社、回答率47.1%）

現状判断：一服感が見られる。

業況は、自社の業況DI値（前期比）が4.8となっており、前回よりも3.8ポイント低下するなど、やや一服感が見られる。

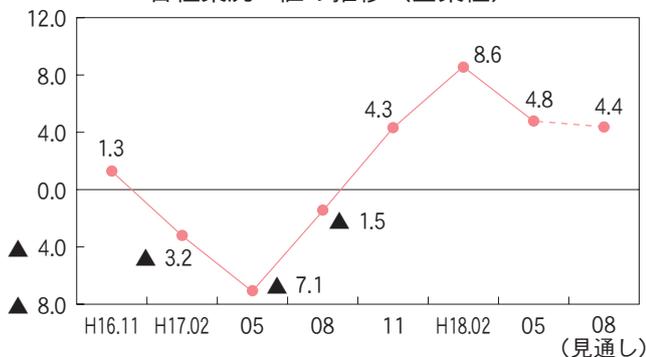
業種別では、建設業で業績の不振が続いているほか、これまで回復基調にあった製造業と卸・小売業でやや一服感が出た。サービス業は個人消費の緩やかな回復を受け、引き続き回復基調を維持している。

来期見通し：踊り場となる見込み。

業況の先行き見通しは、自社の業況DI値が4.4となっており、踊り場的な状況も予想される。

業種別では、引き続き建設業で低調な見込みとなったほか、季節的な要因からサービス業でも一服感が出ている。ただ、先行きに対する懸念材料が比較的少ない製造業や卸・小売業では回復感が先行した。

自社業況DI値の推移（全業種）



(前期比) (調査時点)	自社業況	売上高	営業利益	人員・人手	資金繰り
H18.02	8.6	1.0	▲10.2	5.7	▲9.4
H18.05	4.8	▲2.2	▲12.6	1.4	▲7.2
H18.08 (見通し)	4.4	2.2	▲7.2	▲0.6	▲14.3

建設業（回答企業81社、回答率44.8%）

現状判断：低調に推移している。

業況は、自社の業況DI値（前期比）が▲28.4となっており、前回より7.2ポイント低下するなど、引き続き低調に推移している。

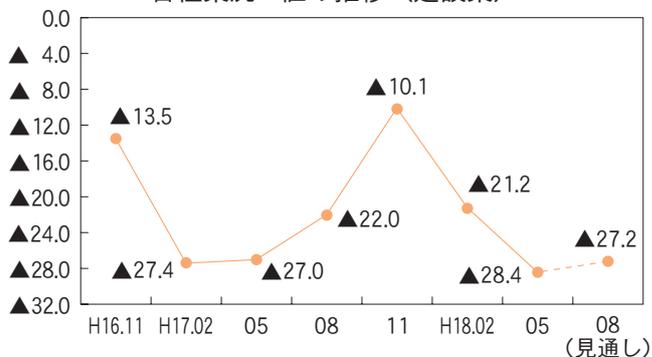
昨年末から年度末にかけて発注された公共工事のボリュームが例年以上に減っているため、手持工事も下降線をたどっている。手持工事高DI値は▲29.6となっており、前回より13.5ポイント低下した。

来期見通し：低調に推移する見込み。

業況の先行き見通しは、自社の業況DI値が▲27.2となっており、引き続き低調に推移する見込み。

今期の手持工事が少なかったこと、およびその後の受注環境の改善も期待し難い状況にあることなどから、来期への繰り越し工事に関しても今期以上のボリュームは見込み難い状況にある。手持工事高DI値の見通しは▲39.5の悪化予想であった。

自社業況DI値の推移（建設業）



(前期比) (調査時点)	自社業況	業界業況	完成工事高	営業利益	手持工事高	人員・人手	資金繰り
H18.02	▲21.2	▲51.5	▲29.3	▲48.5	▲16.1	▲4.0	▲20.2
H18.05	▲28.4	▲56.8	▲38.3	▲38.3	▲29.6	▲22.2	▲28.4
H18.08 (見通し)	▲27.2	▲51.9	▲34.6	▲38.2	▲39.5	▲14.9	▲35.8

← 景気動向を図解!! →

製造業（回答企業108社、回答率53.2%）

現状判断：やや一服感が見られる。

業況は、自社の業況DI値（前期比）が17.6となっており、前回より11.5ポイント低下するなど、前回調査時点における先行き見通し通り、やや一服感が見られた。

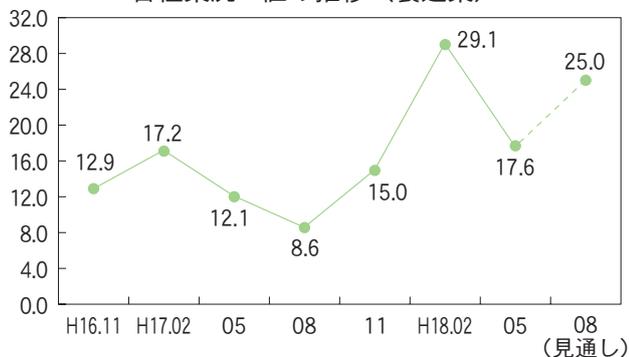
売上高DI値は過去最高水準となった前回調査を若干下回ったものの、引き続き販売が好調なことから10.2と高い水準となった。

来期見通し：回復基調となる見込み。

業況の先行き見通しは、自社の業況DI値が25.0となっており、ふたたび回復基調となる見込み。

輸送機械関連業種は依然として好調を維持する見込みだが、季節性の強い食料品製造業などで今期よりも回復感が強まるとの予想が多く、製造業全体の回復感を底上げする結果となった。

自社業況DI値の推移（製造業）



(前期比)	自社業況	業界業況	売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員・人手	資金繰り
(調査時点)								
H18.02	29.1	12.8	22.8	7.3	▲47.3	▲8.2	8.2	▲0.9
H18.05	17.6	6.5	10.2	▲9.3	▲54.6	▲4.7	10.2	5.5
H18.08 (見通し)	25.0	6.4	21.3	7.4	▲63.9	▲25.0	2.8	▲5.6

卸・小売業（回答企業89社、回答率48.1%）

現状判断：一服感が見られる。

業況は、自社の業況DI値（前期比）が6.8となっており、前回より3.1ポイント低下するなど一服感が見られる。

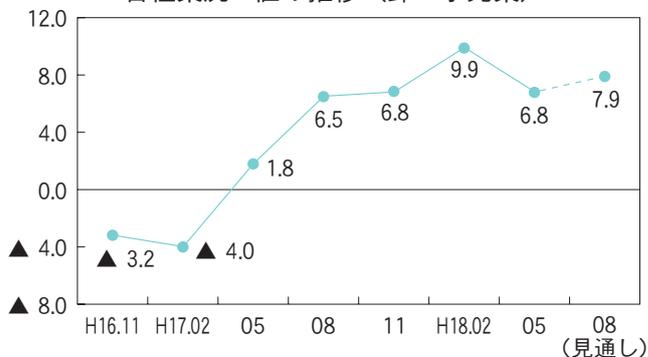
引き続き製造業の好調を背景に機械器具卸や産業用電気機械卸などは好調を維持しているが、建設業関連の資材卸などでは不振が続いており、業種間業況格差が広がっている影響が卸売業者の間にも及んでいる。

来期見通し：緩やかながらも回復する見込み。

業況の先行き見通しは、自社の業況DI値が7.9となっており、緩やかながらも回復する見込み。

製造業に設備投資を控える動きがさほど見られないことなどから、現在好調な機械卸が業界の好調さを牽引する構造は今後も続くと思われる。また、個人消費の回復感が広がっていることから飲食料品卸・小売業でも回復感が先行している。

自社業況DI値の推移（卸・小売業）



(前期比)	自社業況	業界業況	売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員・人手	資金繰り
(調査時点)								
H18.02	9.9	▲4.4	14.3	6.6	▲42.8	▲4.4	7.7	▲14.3
H18.05	6.8	▲8.9	11.2	2.3	▲49.5	▲3.4	11.3	▲6.7
H18.08 (見通し)	7.9	▲10.1	9.0	▲1.1	▲47.2	▲28.1	4.5	▲10.1

各業種別分析

現在とこれからの徹底調査!!

サービス業（回答企業80社、回答率41.9%）

現状判断：上向いている。

業況は、自社の業況DI値（前期比）が18.8となっており、前回より3.2ポイント改善するなど、上向いている。

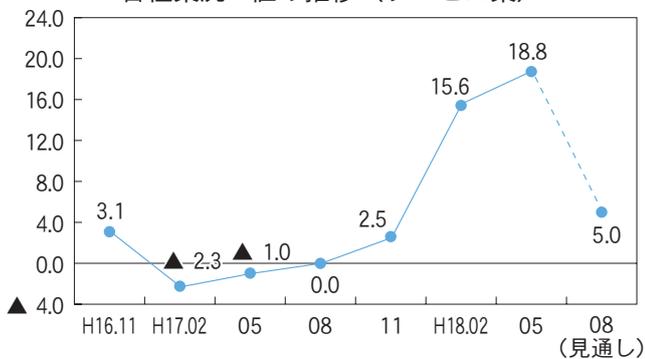
個人消費の回復を背景に、旅館・ホテルやレジャー関連施設など、対個人サービス業の業況が特に好調となっており、サービス業全体の業況回復を牽引している。

来期見通し：一服感が出る見込み。

業況の先行き見通しは、自社の業況DI値が5.0となっており、やや一服感が出る見込み。

季節的に夏場前は一息つく時期であるため、対個人サービス業を中心にやや控えめな見通しが先行した。ただ、個人消費が全体的に盛り上がりを見せていることから、売上高DI値や営業利益DI値は今期と比べていづれも改善予想となった。

自社業況DI値の推移（サービス業）



(前期比) (調査時点)	自社業況	業界業況	売上高	営業利益	人員・人手	資金繰り
H18.02	15.6	▲16.9	▲6.0	▲6.0	12.1	▲2.4
H18.05	18.8	▲15.0	2.5	▲7.5	2.5	▲3.8
H18.08 (見通し)	5.0	▲11.3	6.2	▲2.5	3.8	▲8.7

特別調査：夏季ボーナス支給予定額の動向について

依然として減額基調だが、一部好調業種では増額気配

夏季ボーナス支給予定額の動向（DI値）は、下表のように、全業種で見ると支給予定総額・従業員1人あたり支給予定額ともに昨年冬季・夏季と比べ「減らす」超となるなど、依然として減額基調となっている。

ただし、従業員1人あたりの支給予定額では、製造業や卸・小売業で昨年夏季比「増やす」超となるなど、業績の好調な業種を中心に支給額も上向く見込み。

ボーナス支給予定総額（DI値）

	全業種	建設業	製造業	卸・小売業	サービス業
昨年冬季比	▲20.1	▲43.2	▲13.0	▲11.2	▲16.3
昨年夏季比	▲12.8	▲34.6	▲0.9	▲7.9	▲12.5

従業員1人あたりボーナス支給予定額（DI値）

	全業種	建設業	製造業	卸・小売業	サービス業
昨年冬季比	▲14.2	▲38.3	▲5.6	▲2.2	▲15.0
昨年夏季比	▲8.7	▲34.6	1.9	4.5	▲11.3

(注) このレポートは、弊社の会員向けサービスの一環として実施している「県内企業景気動向調査」(確報版)の概要です。詳しい内容をご覧になりたい方は、会員専用ホームページ (<http://www.sfsi.co.jp/>) へアクセスしてください。

なお、レポートの内容に関するご質問は下記までお問い合わせください。

【お問い合わせ先】

研究開発グループ 熊本・齋藤(信)

TEL : 023(626)9017

e-mail : fsn@sfsi.co.jp